

相模原商工会議所 景気観測調査結果

(2019年4月～6月)

2019年8月30日

業況DIは、製造業と建設業の急激な悪化の結果、全産業でマイナスに落ち込み、景気の減退が明確に。建設業は次期も悪化が続き、他の業種も厳しい状況が続く見通し。

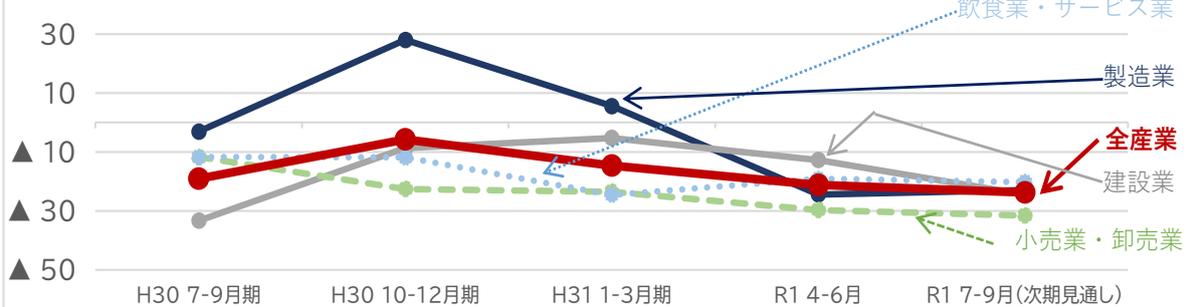
ポイント

- ▶ 2019年4月～6月期の総合業況DIは▲21と、前期▲15から6ポイントの悪化。製造業(前期▲6・今期▲24)、建設業(前期▲5・今期▲13)の業況悪化が大きく影響した。飲食業・サービス業(前期▲25・今期▲19)は小幅ではあるものの改善。小売業・卸売業(前期▲24・今期▲30)はマイナスの状態から改善が見られない。
- ▶ コメントによると、消費増税による駆け込み需要の増加も限定的で、米中貿易摩擦の激化による生産調整や年金2000万円問題による個人消費意欲の減退を訴える声上がる。前期DIから景気の悪化が見られた製造業が大きくマイナスに落ち込み、全業種で業況がマイナスとなった。全国では全業種にわたり業況の改善の兆しがみられるものの、相模原市では飲食業・サービス業を除き業況の悪化が続く。
- ▶ 次期見通しについては総合業況DIは▲24と、今期▲21から▲3ポイントの悪化。製造業(今期▲24・次期▲23)、飲食業・サービス業(今期▲19・次期▲20)は現状維持の見込みを立てているが、小売業・卸売業(今期▲30、次期▲32)は悲観的な見通しが続き、建設業(今期▲13・次期▲25)は更なる悪化が見込まれる。全ての業種が20以上のマイナスに落ち込み、厳しい状況が続くことが懸念される。

各業界から寄せられたコメント

- 【光学ガラス加工業】
・米中貿易問題の影響。大企業の生産調整に伴う生産中止による。受注減。
- 【エクステリア工事】
消費税の増税による駆け込み需要はあるが、そのあとが心配。
- 【生鮮食品卸売】
・年金2,000万不足の問題から消費が低調になったのではないかと。
- 【テニススクール運営業】
・雇用状況が過剰というのは社員のみので、アルバイトは不足している状態である。

業種別業況(総合判断)DI値の推移



	前々期概況 (H30.10-12)	前期概況 (H31.1-3)	今期概況 (R1.4-6)	次期見通し (R1.7-9)
製 造 業	28	6	▲24	▲23
建 設 業	▲9	▲5	▲13	▲25
小 卸 売 業	▲23	▲24	▲30	▲32
飲 食 業	▲12	▲25	▲19	▲20
全 業 種 (総 合)	▲6	▲15	▲21	▲24

DI値 25以上	DI値 30~11	DI値 10~▲10	DI値 ▲11~▲30	DI値 ▲31以下

調査期間:2019年4月1日~6月30日

回答率:29%

回答者数:1149社

調査対象:当所会員事業所3962社

<<景気観測調査>>

前年度同時期との景況を比較し、「良い/悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。